

はじめに——そもそも人権とは何か	3
第一章 基本的人権の政治学	14
第二章 「いじめ」の政治学——「人権」と「権力」	36
第三章 「いじめ」再考——「大津いじめ事件」考	66
第四章 「差別」の政治学——「人権救済法」考	78
第五章 自民党の憲法構想——「日本国憲法改正草案」の検討	93
第六章 人権雑感	120
一 町内会の石神様	120
二 九条の精神——人権と権力	124
三 「美しい国」の「あいまいさ」	130
四 「地域人権憲章」——二つの柱	132
おわりに——憲法議論の新展開	135
資料① ジョン・ロック著『市民政府論(抜粋)』	137
資料② 大河内清輝君の遺書	137
あとがき	161

## はじめに——そもそも人権とは何か

### 国民の人権理解

「そもそも人権とは何か」が与えられたテーマですが、まず、人権をめぐる状況について簡単に見ておきたいと思います。総理府が一九九七年七月に実施した「人権擁護に関する世論調査」によれば、「権利のみを主張して他人の迷惑を考えない人が増えてきたと思う」と答えた人の割合が八二・九パーセントにのぼっているというアンケート結果が、国の「人権擁護推進審議会答申」（一九九九年七月）に紹介されています。これは、「権利の主張」＝「他人の迷惑」と理解する風潮が非常に広まっていることを示しています。この問題が、様々な形で議論されているのはご存知の通りです。「もはや人権教育ではだめだ、教育勅語のような精神での道徳教育が必要だ」ということで、教育基本法の改正議論が急浮上してきていますが、そこには、こうした国民の受け止め方も影響しているように思われます。

### 小林よしのり氏の人権攻撃

こうした状況に追い討ちをかけるように、人権攻撃を真正面から仕掛けてきているのが、小林よしのり氏や「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書攻撃です。例えば小林よしのり氏は、十五戦争あるいは太平洋戦争は自存自衛のための戦争であり、アジアの植民地解放の聖戦でもあったという議論を展開して話題になった『戦争論』（幻冬舎、一九九八年）という漫画を書いた人物ですが、彼は、